

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
58

2019

将来の医療を担う医療人の育成と病院の息吹

DOCTOR'S VOICE 01

遺伝に関する正しい知識と最新知見を提供し、共に考えるカウンセリング

DOCTOR'S VOICE 02

リハビリによって身体機能を維持する入院治療へ

FROM VIP DOCTOR

「オール愛媛」医療の実現に向けた交流や情報提供の礎づくり



遺伝に関する正しい知識と最新知見を提供し、共に考えるカウンセリング

臨床遺伝専門医（小児科学講座 教授、臨床遺伝医療部 部長） 江口 真理子 認定遺伝カウンセラー 尾崎 依里奈 認定遺伝カウンセラー 藤原有基

臨床遺伝医療部と遺伝カウンセリング

臨床遺伝医療部には、臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラー、遺伝医療に関わる医師が所属しています。遺伝性の病気や不安を抱えた方を対象として完全予約制で遺伝カウンセリングを行っています。遺伝カウンセリングは、疾患や不安が何が原因で起こっているのか情報を整理して、患者さんによりよい選択をしてもらうことが目的です。その人自身の既往歴だけでなく、家族の疾患なども含めて患者さんの情報を集め、どのような検査があるのか、検査ではどのような結果が得られるかといったことを説明し、患者さんに選択してもらうための支援が遺伝カウンセリングです。対象とする方も周産期領域・小児領域・成人領域と幅広く対応しています。

専門診療科の全面協力による知見の提供

臨床遺伝医療部が現在力を入れているものに、がんのゲノム医療とIRUD（未診断疾患イニシアチブ）があります。近年、遺伝性のがんの治療や研究が積極的に行われるようになりました。当院の特徴は、病院として遺伝性疾患への理解が深く、協力体制が整っているため、様々ながんのゲノム医療についての遺伝カウンセリングが受けられることです。遺伝性のがんは全身疾患であり、全身の様々なところに症状が出てくることがありますので、ひとつの診療科では治療できない場合もあります。その繋ぎ役となるのが臨床遺伝医療部であり、当院では診療連携をスムーズに運ぶことができています。また、遺伝性乳癌卵巣癌症候群における、四国で2ヶ所の基幹病院の1つに選ばれています。

がん以外の遺伝性疾患に対する診療・研究として未診断疾患イニシアチブ（IRUD）があります。診断のついていない患者さ



PROFILE

- 写真右／ふじわらゆうき○今治市出身。2015年近畿大学大学院遺伝カウンセラーコース卒業。2018年末まで獨協医科大学埼玉医療センター 遺伝カウンセリングセンターで遺伝診療に従事。本年度より当院勤務。趣味は、映画鑑賞、アウトドア。
- 写真中央／えぐちまりこ○広島大学医学部卒業。2008年より当院、2019年より現職。好きな言葉はスティーブ・ジョブズ氏の「Have the courage to follow your heart and intuition」（自分の心を信じる勇気を持つ）。
- 写真左／おざきえりな○2014年近畿大学大学院総合理工学研究科遺伝カウンセラーコース卒業。2014年より愛媛大学医学部附属病院入職。

んの遺伝子を網羅的に調べ、診断や疾患の治療を決める手がかりを得ることを目的とするプロジェクトです。このプロジェクトは日本医療研究開発機構（AMED）が主導しており、日本全国の大学病院や研究機関が連携して、全国の患者さんへ診断を提供しています。当院も全国で38ヶ所の拠点病院のひとつとして四国全体の遺伝診療体制構築に寄与しています。

患者さんの悩みと問題を共有することからスタート

人は誰でも病気の原因となる遺伝子の変化を5~6個くらい持っています。遺伝性疾患には、遺伝子の変化を持っていると必ず発症するものも、持っているだけでは発症しないものもあります。また、親兄弟や子どもなど家族にも遺伝が引き継がれている可能性があります。その場合、家族にも影響ができる可能性があるときには相談し、家族の方にも受診していただいたり、様々な診療科と診療連携を行ったりします。

遺伝に関するることは非常にデリケートで、誤解も多い分野ですので、強い不安を抱えながらカウンセリングを受けに来られる患者さんもいます。私たちは、信頼してもらうことはもちろんですが、気軽に話を聞いて相談できるような関係を築くことを目指しています。



リハビリによって身体機能を維持する入院治療へ

リハビリテーション部 主任技師 渡部幸喜

日々変わっていく医療の中で、リハビリテーションも大きく変わりました。10年前は整形外科の手術後や脳卒中後などの患者さんばかりでしたが、今は心臓系、呼吸器系、がん系など多岐にわたる患者さんがリハビリをしています。スタッフ数も3倍以上に増えました。「入院関連機能障害」という言葉も浸透し始めています。昔の入院は安静にするものでしたが、そのことで体のいろいろな筋肉が弱り、歩くことができなくなったり、退院後の生活に支障が出たりすることがありました。今、そうしたことは入院関連機能障害と呼ばれ、リハビリを含め病院全体で対策が行われ、当院でも力をいれています。

また、リハビリテーション部は他職種との連携を密にし、チーム医療の1部門に組み込まれています。私たちはカンファレンスに積極的に参加し、医療者側にリハビリの最新情報を提供しています。共同研究や理学療法士学会以外の学会での共同発表など、院外連携も強化しています。今後も日々勉強を重ね、一人一人の患者さんに丁寧な対応を続けたいと考えます。



PROFILE

わたなべこうき○1985年愛媛十全医療学院理学療法学科卒業。愛媛十全医療学院教務科、NTT松山病院を経て1988年当院へ。趣味は洗車と料理。

FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること『VIP DOCTOR 聞く』

「オール愛媛」医療の実現に向けた交流や情報提供の礎づくり

愛媛労災病院 院長 宮内文久

当院では「コミュニティホスピタル」という概念を掲げ、紹介状なしの受診、ワンコイン検診、地域の方々との運営協議会など、地域密着医療を具体化しつつあります。附属病院や県内の各病院とも、様々な交流や情報共有ができるれば、オール愛媛で患者中心の医療が実現できるはずです。そのため愛媛大学に期待していることは、次の3点です。①互いの病院の特徴を理解するため、双方向で多職種の人的交流をする。例えば、当院は産業保健に携わっていますし、「治療と就労」の両立支援では全国一の取組をしていますので、ぜひ知ってほしいです。②医師を含む医療従事者に対する先進医療の情報提供を積極的に推進して下さい。また、医学部・附属病院での最新研究や設備の情報を発信してほしいです。③チーム医療は各病院で方法や体制が異なる可能性があり、チームのあり方や医療への取組に対するワークショップなどの機会を提供してほしいと考えています。附属病院が中心となってそうした取組ができれば嬉しいです。



PROFILE

みやうちふみひさ○西予市出身。1979年山口大学大学院医学研究科修了。1984年から2年間ミシガン大学で研究に従事。1989年より愛媛労災病院に勤務、2014年より現職。自身の病気が転機となり、患者とよりじっくり向き合う医療を実践中。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

七夕コンサートを開催



令和元年8月5日（月）、医学部附属病院にて開催しました。今回は患者さんやご家族、職員等約250人が参加しました。久保幸副病院長の開会挨拶後、奇術部の学生によるジャグリングや手品などが成功する度に、会場からは歓声や拍手が起きました。最後は吹奏楽部の学生が迫力のある演奏を披露し、「ふるさと」を患者さんと一緒に合唱しました。会場全体が一体となって笑顔あふれる楽しいひとときを過ごしました。

医療サービス課 ☎089-960-5182

緩和ケア研修会を実施



令和元年7月6日（土）、医師や看護師、薬剤師、栄養士等の48人が参加し、緩和ケアに関する基本的な知識や技術を学びました。研修会は、がん診療連携拠点病院の指定要件として、平成21年度から毎年開催し今回が11回目です。がん告知のロールプレイ、地域で連携した緩和ケアの実施について考えるグループワークなど様々なプログラムを実施しました。今後も愛媛県におけるがん診療体制の向上に努めます。

総務課 企画・広報チーム ☎089-960-5943

世界肝炎デーイベントを実施



令和元年7月27日（土）・28日（日）、世界肝炎デーの啓発イベントが開催されました。27日は坊っちゃん広場で、肝炎検査の重要性を訴える街頭キャンペーンが行われ、当院肝疾患診療相談センター、看護部、総合診療サポートセンター、栄養部、薬剤部など歴代最大の80人近くが参加しました。28日にはホテルマイステイズ松山で、予防や治療に関する理解が深まる市民公開講座を開催しました。

総務課 企画・広報チーム ☎089-960-5943

アンチエイジング講演会を開催



令和元年8月4日（日）、抗加齢医学（新田ゼラチン）講座開講記念「アンチエイジング講演会」を開催しました。伊賀瀬道也教授が、新田ゼラチン株式会社の低分子コラーゲンペプチドに軽度ながら動脈硬化の改善作用があることを中心に、健康寿命の延伸について講演を行いました。また、抗加齢予防医療センターの臨床データをもとに、動脈硬化予防がアンチエイジングに繋がることを参加者に分かりやすく話しました。

総務課 企画・広報チーム ☎089-960-5943

令和元年度指導医講習会



令和元年9月7日（土）・8日（日）、卒後臨床研修指導医講習会を行い、当院を含む県内の医師41人が参加しました。明日の愛媛の医療を担う研修医を指導するために必要な知識や能力を有する指導医を養成することが目的です。参加者はグループワークや講演をとおし、指導医のあり方や役割、臨床研修の問題点や対応について熱心に学びました。参加医師にとって、研修医により良い指導をするための有意義な講習会となりました。

総務課 臨床研修チーム ☎089-960-5098

編集後記

晩秋の候、朝夕寒く感じる季節になりました。テーマを「将来の医療を担う医療人の育成と病院の息吹」として、将来の愛媛の医療人育成、病院の各部署の活動を紹介させていただきます。表紙は医学生、看護学生の実習風景です。これからも若手医療従事者の育成にご協力いただければ幸甚です。本号では遺伝に関する最新の知識の普及とカウンセリングを担当する、当院の臨床遺伝医療部を紹介させていただきました。また、様々な疾患で利用されているリハビリテーション部およびさらなる連携を期待して愛媛労災病院宮内文久院長にお話を伺いました。裏表紙では当院の活発な活動の一端も報告させていただきます。県民の医療を守るために引き続き精一杯努めていきます。これからも当院を盛り立てていただきますよう宜しくお願い申し上げます。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙：指導医師・指導看護師・医学科生・看護学科生の学生実習



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111（代）
ホームページ <https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>